

SDHI 使用ガイドライン

作成年月日：2017 年 10 月 5 日

改定年月日：2024 年 5 月 30 日

作成者：Japan FRAC SDHI 作業部会

対象とする有効成分：

作用機構	作用点とコード	グループ名	化学グループ名	有効成分名	農薬名（例）	耐性リスク備考	FRACコード
C：呼吸	C2：複合体II コハク酸脱水素酵素	SDHI (コハク酸脱水素酵素阻害剤)	フェニルベンズアミド	フルトラニル	モンカット	中～高 複数の耐性 菌が発生。	7
				メフロニル	バンタック		
			フェニルオキソ				
			エチルチオフェンアミド	イソフェタミド*	ケンジャ		
			ピリジニルエチルベンズアミド	フルオピラム*	オルフィン		
			チアゾールカルボキサミド	チフルザミド	グレータム		
			ピラゾール-4-カルボキサミド	フルキサピロキサド*	イントレックス、 ロンセラ		
				フラメトビル	リンバー		
				インビルフルキサム*	カナメ、 ミリオネア、 モンガレス		
				イソピラザム*	ネクスター		
				ペンフルフェン	エバーゴ		
				ペンチオピラド*	アフエット、 フルーツセイバー		
				セダキサ	ビブランスの成分		
			N-メトキシフェニルエチル ピラゾールカルボキサミド	ビジフルメトフェン	ミラビス		
			ピリジニルカルボキサミド	ボスカリド*	カンタス		
			ピラジニルカルボキサミド	ピラジフルミド*	バレード		

*：高リスク病害に適用がある SDHI（病原菌耐性リスク表参照）

<http://www.frac.info/docs/default-source/publications/pathogen-risk/pathogen-risk-list.pdf>

作物別使用ガイドライン：

1. 野菜類、豆類

対象とする有効成分：高リスク病害に適用がある SDHI

(1) 使用回数

*SDHI 単剤および混合剤(以下、SDHI 剤という)の 1 作期あたりの総使用回数（以下、総使用回数という）は 3 回までとする。

*殺菌剤の総使用回数に対する SDHI 剤の最多使用回数は、以下のガイドライン表のとおりとする。

殺菌剤の総使用回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	≥10
SDHI 単剤の最多使用回数	1	1	1	1	2	2	2	3	3	3
SDHI 混合剤の最多使用回数	1	1	1	2	2	3	3	3	3	3

(2) 留意事項

*各薬剤の農薬登録の範囲（使用回数、希釈倍数、散布水量等）で使用する。

*予防的に使用する。

*防除対象の病害に有効な成分との混合剤を使用する。

*単剤と混合剤を併用する場合は、混合剤のガイドラインに準ずる。

*SDHI 剤を連続使用しない。

*作用機構の異なる殺菌剤と輪番で使用する。

*次作においても、前作からの輪番使用を継続する。

2. 果樹類

対象とする有効成分：高リスク病害に適用がある SDHI

(1) 使用回数

＊SDHI 剤の最多使用回数は、殺菌剤の総使用回数の 3 分の 1 までとする。

＊ただし、下記の病害を対象とする場合は、重点防除時期における使用回数を以下のガイドライン表のとおりとする。

作物・病害	重点防除時期における SDHI 剤の最多使用回数
リンゴ黒星病	1
ナシ黒星病	2
カンキツ灰色かび病	1
ブドウ灰色かび病	1

(2) 留意事項

＊各薬剤の農薬登録の範囲（使用回数、希釈倍数、散布水量等）で使用する。

＊予防的に使用する。

＊SDHI 剤を連続使用しない。

＊作用機構の異なる殺菌剤と輪番で使用する。

注意事項：

＊本ガイドラインは、耐性菌の発生遅延化を目的としています。

＊本ガイドラインは、使用する圃場において既に耐性菌が発生している病害には適用しません。

以 上